

1 恒久平和モニュメント「なぐやけ」



基本情報

所 在：若狭海浜公園
 住 所：沖縄県那覇市若狭1-26
 (沖縄都市モノレール 旭橋駅または県庁前駅 徒歩15分)
 建 立 者：那覇市
 建 立 年：平成8年
 連 絡 先：那覇市 健康福祉部 福祉政策課 098-862-9002 (直通)

碑 文

【裏】

生きぬき 築き上げた都市 那覇—その戦後は 米軍のバリケードで囲まれた 焼野が原から出発した はじめに 一〇三人の市民が生きぬいてもどった なつかしい壺屋のまちに 多くのいのちを失い ふるさと那覇も消滅し 悲しみは深かったが 打ちふるう復興の鉄には力があふれ みんなまなこを しっかり前へ向け 踏み出した 生活と都市再建の一歩を	それから 心のいしじを固く敷きつめ 平和通りをつくり 国際通りを開け もう二度と失うことのない 那覇を築いてきた ここにくるまで五十年 一〇三人は三十一万へとかわった 那覇—それは戦争をしない都市 那覇—それは市民の愛が守るまち 那覇—それは市民が主人公の都市 那覇—それは世界の都市を友とするまち
	私たちは いま、ここに 市民の誇りと勇気により蘇った 都市・那覇を世界に宣言する 一九九五年・沖縄戦終結五十年記念宣言 那覇市

説 明 文

恒久平和のモニュメント
なぐやけ

沖縄戦は、一九三一年の柳条湖事件にはじまった日中戦争以来、一五年に及んだ戦争の最後の激戦であり、日本で唯一住民を巻き込んだ地上戦でありました。一九四四年十月十日の空襲によって、那覇市は灰燼に帰し翌年四月の米軍上陸から三ヶ月余に及んだ沖縄戦は熾烈を極めました。その結果、那覇市民の戦没者は二万八千人余に及び、沖縄全体では二十三万人余の尊い人命が失われました。わたくしたち那覇市民は、戦争の惨禍を決して忘れることなく、愚かな戦争を再び繰り返してはならないと深く決意するものがあります。那覇市では戦後五十年の節目にあたり、那覇市連合遺族会の提案に基づき、戦没者の恒久平和への強い決意をアジアや世界の人々に伝えるため、那覇市平和宣言を行い、ここに恒久平和のモニュメント「なぐやけ」を建立いたしました。「なぐやけ」は「穏やか」「和やか」という沖縄の古語で、いつまでも平和でありますようにとの祈りが込められています。那覇市

2 なぐやけの碑 慰霊祭



開催概要 (平成25年度)

歳事名：なぐやけの碑 慰霊祭
 会場：若狭海浜公園内 恒久平和モニュメントなぐやけの碑前
 住所：沖縄県那覇市若狭1-26
 (沖縄都市モノレール 旭橋駅または県庁前駅 徒歩15分)
 日時：平成25年10月10日(木) ※例年10月10日開催
 参列者数：約100人
 連絡先：那覇市健康福祉部 福祉政策課 098-862-9002 (直通)

式次第 (平成25年度)

1. 開式のことば…小祿遺族会会長
2. 黙 禱
3. 読 経…護国寺住職
4. 主催者焼香並びに弔辞…那覇市長、那覇市議会議長、遺族代表 那覇遺族会
5. 来賓並びに各遺族会代表焼香
6. 閉会のことば…首里遺族会会長

弔 辞 (平成25年度)

本日は、那覇市連合遺族会主催の第18回「なぐやけの碑」慰霊祭が執り行われるにあたり、謹んで哀悼のことばを捧げます。

69年前の10・10空襲により、多くの尊い命とともに歴史ある那覇市の街並みがほとんど焼失し、人々の心に深い悲しみを残しました。

戦後の復興は、ご遺族の方々をはじめ多くの市民が、深い悲しみを乗り越え、那覇への愛着と平和を希求する心を結集することから始まりました。

今もこうして、大嶺正光(おおみねまさみつ)会長をはじめご遺族の皆様が戦没者を慰霊し、恒久平和を祈念し続けておられますことに、深く敬意を表します。

2万9千名余の市出身戦没者名簿が奉納されている平和のモニュメント「なぐやけの碑」も、長い間懸案であった改修工事を終えて、こうして本年の慰霊祭が執り行われる運びとなり、ご参列なされた皆様のお心も安堵されたものと拝察いたします。

今那覇市の発展があるのも、戦禍により犠牲となられた多くの方々の思いを引き継ぎ、発展にご尽力された皆様のご苦勞あったからこそであり、そのご功績には、深く感謝を申し上げるものでございます。

本市といたしましても、那覇を愛する先人たちに見守られながら、先人たちの思いに応えるべく、風格ある都市を目指し、全力で取り組んでまいります。

私たち沖縄県民は、戦争により心に深い傷を負いましたが、その試練を教訓として、平和が何よりも大切であることを心に刻み、沖縄戦の実態、そして戦争の愚かさを後世に継承し、恒久平和実現のために努力をすることを、ここに誓うものであります。

結びに、この「なぐやけの碑」に葬られている方々のご冥福と、お集まりのご遺族の皆様のご健勝を祈念いたしまして、弔辞といたします。

平成25年10月10日
 那覇市長 翁長 雄志

3 海鳴りの像



基本情報

所 在：旭ヶ丘公園（対馬丸記念館裏）
 住 所：沖縄県那覇市若狭1-26-5
 （沖縄都市モノレール 旭橋駅または県庁前駅 徒歩15分）
 建 立 者：戦時避難船舶遺族会
 建 立 年：昭和62年6月23日
 連 絡 先：戦時避難船舶遺族会 個人宅のため記載せず

碑 文

【表】

海鳴りの像

【表下部】

海鳴りの像

第二次世界大戦（太平洋戦争）で沖縄県は、全国で唯一地上戦が闘われ、軍・民併せて二十万余の尊い命が犠牲になりました。戦後六十二年経った今日なお、戦争で犠牲になった人々の遺骨がいまだに山野に残されたままになっています。他方沖縄県は、離島県であるが故に、海で犠牲になった県民は三四〇五人（沖縄県調査）にのぼります。学童疎開船「対馬丸」を初め、軍需工場に向かった若者や女子挺身隊・少年航空兵になるために乗船した者・召集令状を受け、郷里から出征しようとする者から沖縄に向かったもの・満州開拓団から帰郷した者・南洋方面から軍命によって強制送還された者などです。

沖縄県民が乗船して撃沈された戦時避難船舶は二六隻です。海なるの像には、対馬丸を除く二五隻の船舶で犠牲になられた県民一九二七人（沖縄県調査）の霊を祀っております。二度と再び悲惨な戦争は起こしてはならないと堅く誓い、犠牲になられた御霊に心から追悼の誠を捧げます。戦時避難船舶遺族会は、一九八七年六月二十三日「海鳴りの像」を建立しました。二〇〇七年六月二十三日、赤城丸（四〇六人）・嘉義丸（三六八人）・開城丸（十人）・湘南丸（五七七人）・台中丸（一八六人）など五隻の犠牲者（一五四七人）の「刻銘板」を建立しました。

戦時避難船舶遺族会

4 小桜の塔



基本情報

所 在：旭ヶ丘公園（対馬丸記念館裏）
 住 所：沖縄県那覇市若狭1-26-5
 （沖縄都市モノレール 旭橋駅または県庁前駅 徒歩15分）
 建 立 者：対馬丸遭難学童遺族会
 建 立 年：昭和28年5月5日（昭和34年6月9日移設）
 連 絡 先：対馬丸記念会 098-941-3515

碑 文

【表】

小桜の塔

説 明 文

【左】

昭和十九年八月二十二日夜半 学童疎開船対馬丸は 米潜水艦の魚雷攻撃を受けて 悪石島沖で轟沈し いたいけな学童と付き添いの人・一四八四人の尊い生命がひと時に奪われてしまいました。これらのみたまを弔い慰め 世界の恒久平和を念ずるために 多くの人々の善意で 小桜の塔 は建立されました。

【右】

小桜の塔建立について
 愛知県丹陽村の「すずしろ子供会」会長河合桂氏は戦争の犠牲となった子供達の慰霊塔が沖縄にないことを憂え、昭和二十八年護国寺の名幸芳章住職を通じて対馬丸遭難者遺族会に建立の意志を申し出た。河合氏を始め関係者は愛知県の児童に広く一円募金を呼びかけて二十余万円の浄財及び資材を集めるに至り、同年五月五日小桜の塔が建立された。